

◆プロポーザル方式を採用する理由

1. 企画の独創性とストーリー性が不可欠なため

本事業の目的は、EVを単なる「移動手段」から「暮らしを支えるインフラ」へと再定義することにある。スペック紹介に留まらない、「停電した夜に家族を守る」といった市民の共感を得るためのストーリー構築や演出能力は、価格のみで評価できるものではなく、各事業者の創意工夫（プロポーザル）を比較検討する必要がある。

2. 高度なステークホルダー調整力が求められるため

限られた予算の中で、複数の地元ディーラー等から車両提供やスタッフ派遣の協力を引き出すため、単なる運営代行ではなく、各社に参画メリット（CSR活動としての価値等）を提示し、地域一体となったイベントを創り上げる高い交渉力とコーディネート能力を持つ事業者を選定する必要がある。

3. 政策横断的な専門知見が必要なため

本事業は、環境配慮（脱炭素）だけでなく、危機管理（防災）や生活への貢献（経済性）といった多岐にわたる行政課題を網羅した展示内容となる。これら複数の政策的視点を理解し、来場者に分かりやすく可視化（パネル制作やデモ実演等）する専門的な知見と構成力を評価する必要がある。

4. デジタルコンテンツ（動画）の高い表現力が求められるため

イベント終了後も活用する「普及啓発ショート動画」は、SNSでの拡散や市民への大きなインパクトを求められる。動画のクオリティは、表現のセンスや構成力、ターゲット層に刺さる編集技術に依存する部分が大きく、技術力を審査対象とするプロポーザル方式が適している。

5. 高度な安全管理とリスク回避能力が必要なため

EVからの給電デモや試乗体験など、火気や電気、車両移動を伴う特殊な運営形態となる可能性があるため、「エコライフステージ」という多人数が集まる場での安全確保と、緊急時の対応能力を厳格に審査し、信頼性の高い事業者を選定する必要がある。